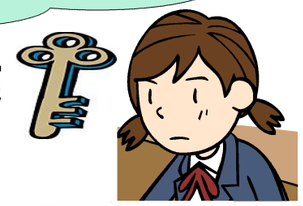
学校の生徒指導機能を高める連携の在り方
～事例から学ぶ不登校・校内暴力解決策の提言～

不登校は、これで解決！

１００の事例が語る共通の鍵



よくある
不登校の始まり　（典型例）

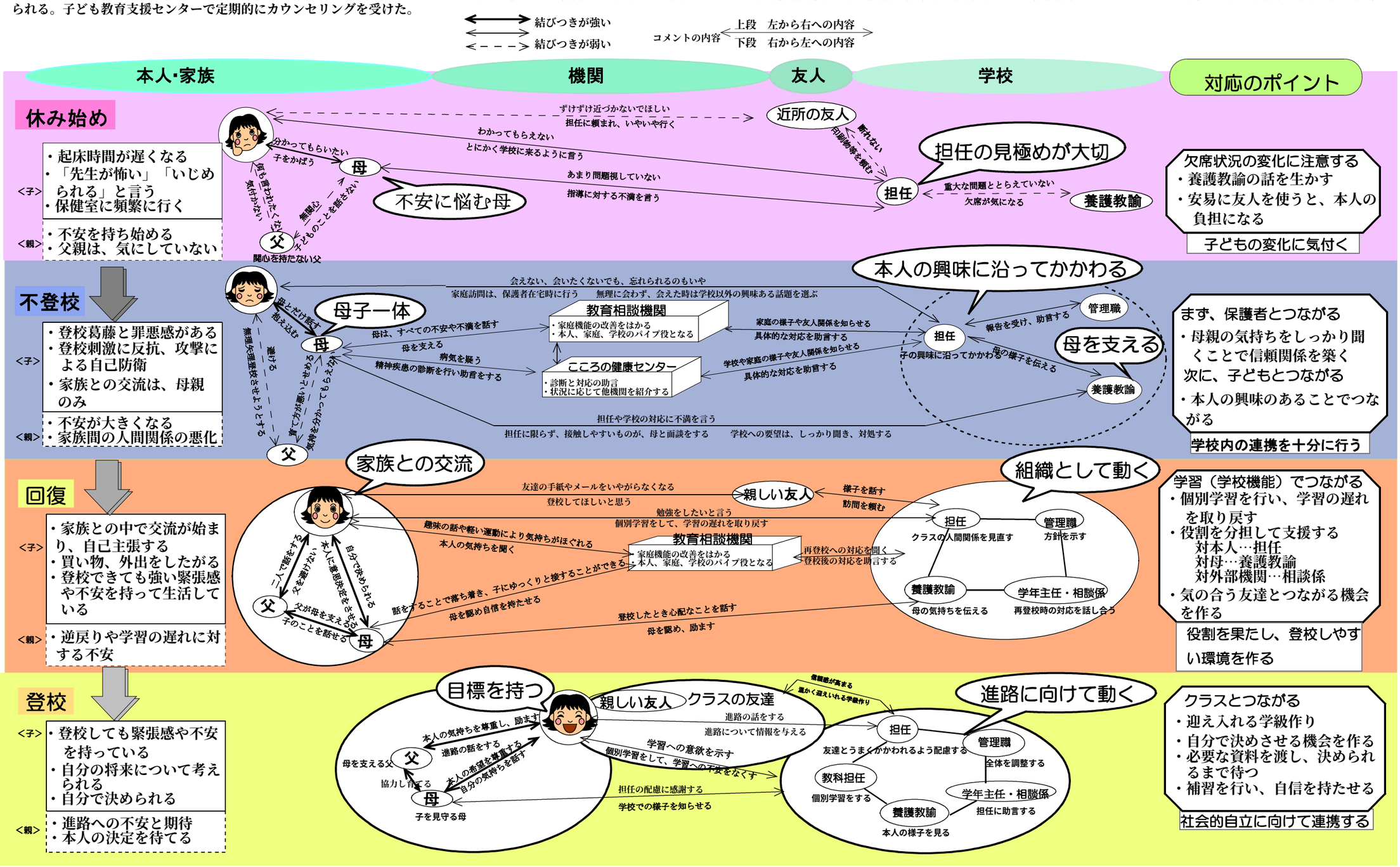
中学３年女子。中２の５月頃から、体調不良を訴え、保健室で過ごすことが多くなる。「友達にいやなことを言われる。」と担任に相談するが、「気にするな。」としか言われなかった。
連休明けから休みが増え、母親の送り迎えで週数回登校するが夏休み明けには、全く登校しなくなってしまった。

解決への共通パターンを
示しました。

くわしくは次へ

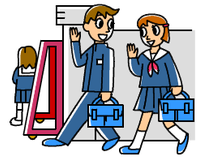
群馬県総合教育センター

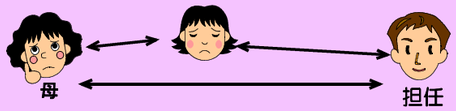
＜経過＞　母親は、担任に相談したが、その対応に不満を持った。１学期は、母親が送り迎えをして、週１，２回登校していた。夏休みは元気に過ごせたが、２学期になり、登校できなくなる。些細なことにいらだったり、何もせずぼーっとしたりして、感情の起伏が激しくなり、母親は、精神的な病気を疑うようになった。学校からの紹介で、こころの健康センターで心理検査を受けた。検査の結果は、異常はなく、相談機関でカウンセリングを受けながら様子を見ることを勧められる。子ども教育支援センターで定期的にカウンセリングを受けた。



そして、こう解決しました・・・

家庭と学校のつながりを第一に考え、対応していった。担任一人に任せてしまうのでなく、校内が組織としてまとまり、役割を決め、家族を支えた。外部の相談機関に行くことで本人と母親の気持が安定し、父親に相談できるようになった。家族間の交流が増えることで本人が次第に自分の将来を考えられるようになり学校に復帰した。



状態	中心となるかかわり	解決までのポイント
休み始め		**まず、話を聞く** 母親の気持ちに沿った丁寧な対応をする **欠席の様子に注意** 気になる子に意識して声かけをする。 休み時間の様子にも注意する。
不登校		**無理をしない** 一人で抱え込まず、周りに援助を求める。 担任以外や外部機関と連携することも有効である。 **興味あることでつながる** 趣味や好きなことを話題にする。
回復		**焦らない** 本人の不安を理解する。 分担をして連携する。 **登校しやすい環境作り** 個別学習で不安を減らす。 仲のよい友達と交流の機会を作る。
再登校		**見守る** 社会的自立を助ける。 クラスの友達とふれあう機会を作る。 **目標を持つ** 自分で決める。

（特に不登校期や回復期では、管理職・相談主任が中心となり、担任を支える）

連携できるおもな機関

機　関　名	電話番号	どんな相談をするか	どんな連携をするか
子ども教育支援センター	0270(26)9200	・子どもや家族への心理的支援 ・学校の対応への助言	・家庭環境 ・学力 ・友人関係 について できるだけ詳しい情報を事実のみ提供する。 ・学校復帰にむけての情報交換をし、親や子へのかかわりかたの助言を得る。 ・心理的診断の状況と対応の仕方の情報を得る ・復帰後も連携を続ける。
いじめ緊急対策室	0120-889756	・不登校の原因がいじめによると考えられられるときの支援	
児　童　相　談　所	中央027(261)1000 西部027(322)2498 東部0276(31)3721 中之条0279(75)3303 沼田0278(23)2185	・家庭内に問題が見られるときの家庭内の調整、養育相談	
こころの健康センター	027(263)1156	・身体や精神に不安定な症状が表れたとき、心理検査等により診断を行い、適当な医療機関を紹介	

問い合わせ先
群馬県総合教育センター教育相談に関する調査研究チーム
カリキュラムセンター　０２７０－２６－９２０８

学校の生徒指導機能を高める連携の在り方
～事例から学ぶ不登校・校内暴力解決策の提言～

校内暴力は、これで解決！

100の事例が語る共通の鍵

校内暴力よくある始まり（典型例）

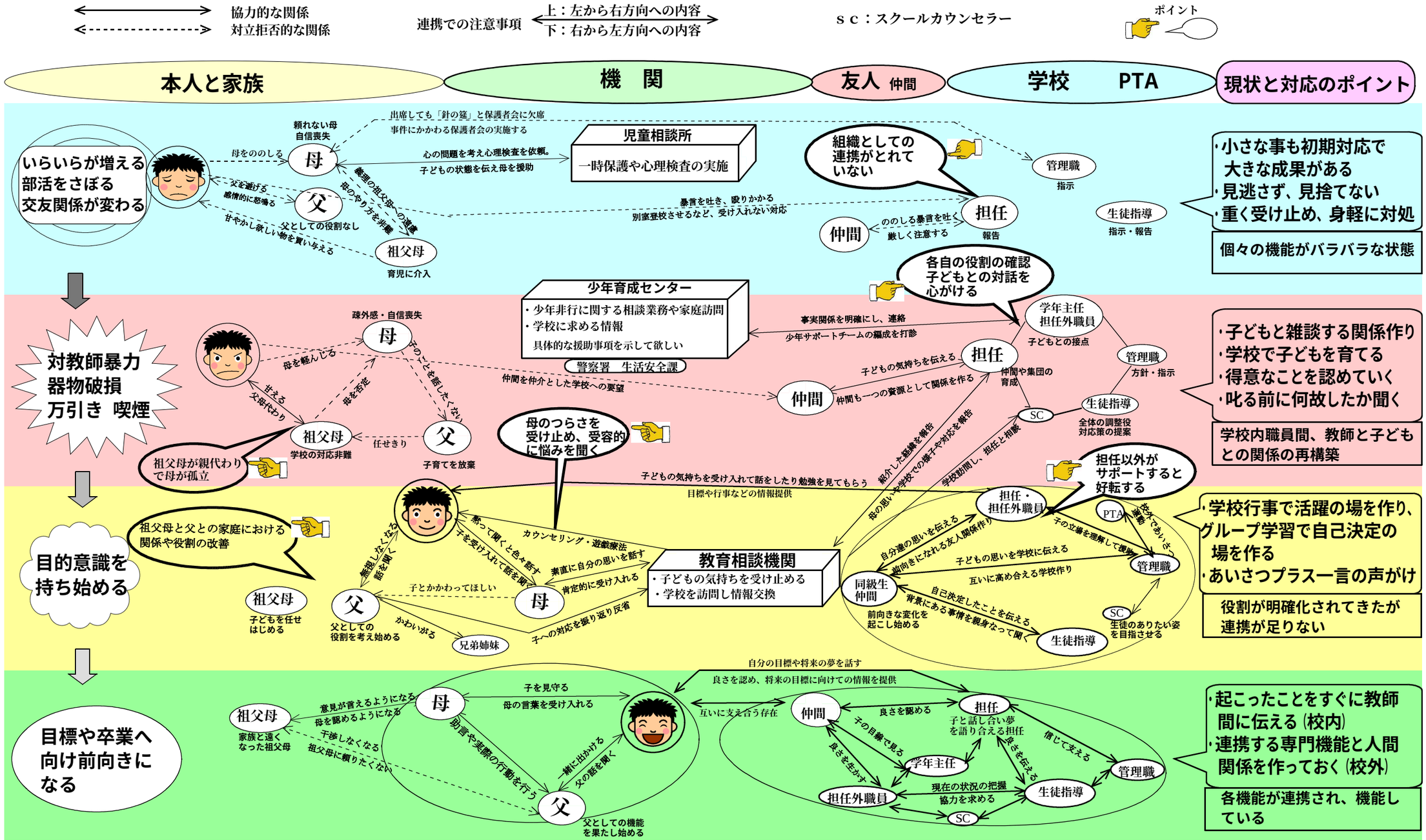
中学３年生男子。中１の夏休みから非行グループとのつき合いが始まった。
２年生で授業に出なくなり、廊下で仲間とたむろしたり、暴れて壁をけったりしていた。教師の言動に逆らい、注意した教師につかみかかることもある。。
深夜徘徊を繰り返し、万引きや喫煙もする。

解決への共通パターンを示しました。

くわしくは次へ

群馬県総合教育センター

《経過》母は、非行がエスカレートすることを心配し、児童相談所に相談した。心の問題があるのかと、心理検査を受けさせたが、特に問題はなかった。スクールカウンセラーが、少年育成センターを紹介した。家に居場所がなく、孤立しがちな母は、自宅から遠いこともあったので、子ども教育支援センターでカウンセリングを受けた。自分の思いやつらさを受け止められ、次第に自信や落ち着きを取り戻していった。３年生になると、グループの何人かは進路を考えて抜け始め、A男にも授業に出るよう持ちかけた。始め荒れたが次第に将来のことを気にし始め担任外の職員にも不安を話すようになった。父もカウンセリングを受け、自分自身が親離れをしていないことや、A男への対応が原因であったことに気づき、A男の話を聞くなどの努力をした。



そして、こう解決しました・・・

問題を抱える生徒らと雑談できる教師が、彼らの思いを受けとめるなど、学校内では役割を持って子どもにあたった。また、学校行事で活躍の場を作り、グループ学習で自己存在感を高めた。さらに、少年育成センターと連絡をとり、協力を要請。いざというときは出動態勢に入れるようにした。母には相談を受けるよう勧め、父と母が一致して協力し子どもを教育できるよう支援した。

３年生になり、進路に目を向けさせると次第に落ち着いてきた。

解決までのポイント

①前兆期

・子どもの話を反論せずに聞いて、子どもとの絆を切らずにつながる。
・物が壊れたことなども重く受け止め、素早く報告し対応を協議する。

②暴力期

・抱え込まないで学校を開き、関係機関に情報を伝えると共に、本人保護者それぞれを支える役割を決め対応していく。
・荒れた子と雑談できる心の余裕を持つ。

③回復準備期

・本人の得意なことを認め、活躍の場を与える。
・家庭でも、父母が役割を再構築できるよう支援する。

④回復期

・希望や夢を考えさせて、将来へつなげられるよう進路実現に向けて、学校が組織として動く。
・職員の意識の規準と指導の方針が一致するよう学校全体として規範意識を高めていく。

（同じ対応ができるよう日頃の職員同士のつながりを大切にする。）

主な相談機関連絡先

機関名	電話番号	相談できること	こんな連携をします
少年育成センター	027(254)3741	少年非行に関する相談 依頼に応じてパトロール	交友関係 家庭の情報
こころの健康センター	027(263)1156	すべての人の心にかかわる相談	心理検査や医療機関紹介
児童相談所	中央　027(261)1000 西部　027(322)2498 東部　0276(31)3721 中之条0279(75)3303 沼田　0278(2392185	養護や虐待などの相談	一時保護や心理検査
子ども教育支援センター	0270(26)9200	学校教育における様々な問題の相談	子どもへのかかわり方
いじめ緊急対策室	0120-889756	いじめにかかわる悩みの相談	学校などとの連絡

問い合わせ先
群馬県総合教育センター教育相談に関する調査研究チーム
カリキュラムセンター　０２７０－２６－９２０８